

26年度 事業報告

・目的

福島第一原子力発電所事故の放射線汚染による福島農産物風評被害は、いまだ根強く残っています。その為に放射能による食品の安全性や環境からの放射線によるリスクに過敏に反応する事を防ぐ為の講演活動を行います。

・主催 KRM 家族のリスクマネジメント勉強会

本活動は、経済産業省資源エネルギー庁より委託を受けた一般財団法人日本原子力文化財団の協力を得て実施しています。

・専任講師 半谷輝己(はんがいてるみ)

・主な講演内容

1. 福島県産の食品や水道水について
2. 放射線防護と損失余命について
3. 福島へ孫をお盆やお正月に帰って来てもらうための準備と工夫の提案(福島の食材を食べてもらう工夫)
4. 各世代に対して放射線・放射能と立ち向かうために様々な工夫の提案

・実施日と場所

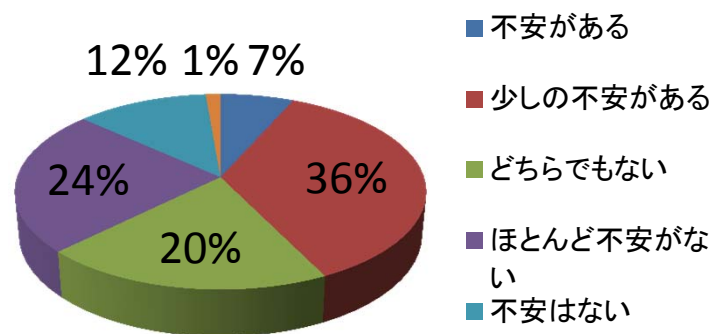
2月14日・17日・21日 福島市 2月18日 喜多方市 2月19日・21日・28日 伊達市 2月27日いわき市

・対象 保育園幼稚園保護者・施設スタッフ 講演参加者総数 132名

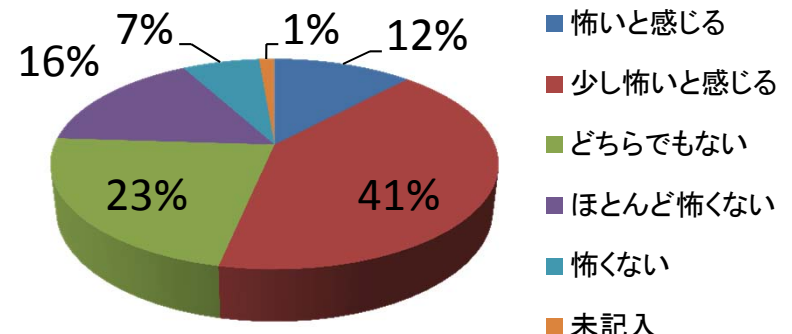
アンケート結果

- ・講演前には福島の現在の場所に住むことに不安を持っていた方が半数以上も見られたが、講演後はほとんどの方が不安がないと答えている
- ・講演後、講師の話を参加者のほとんどの方が理解し、講演内容の浸透が進んだと思われる
- ・講演により、これまでの気持ちの整理がなされ、県民としての自己肯定感情が高められたことが示唆された

▶講演前

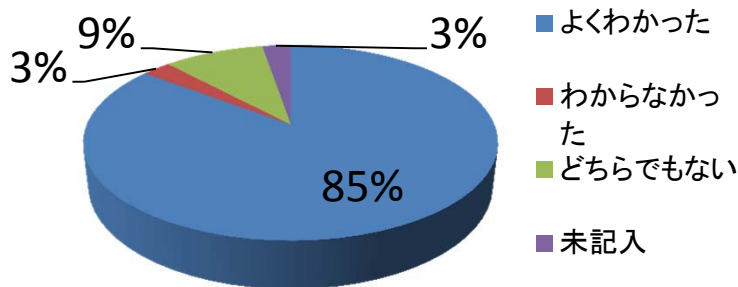


今のお住まいに住むことに不安はありますか

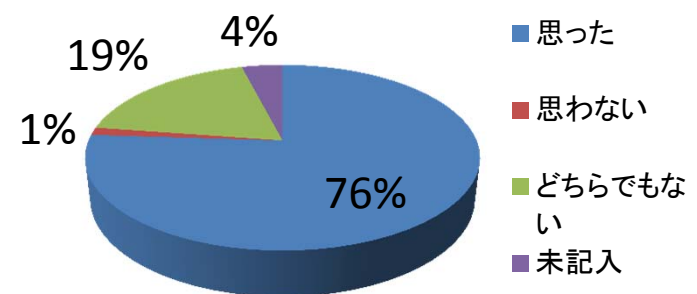


あなたの低線量放射線の不安度(恐怖度)はどの程度ですか

▶講演後 講師への評価



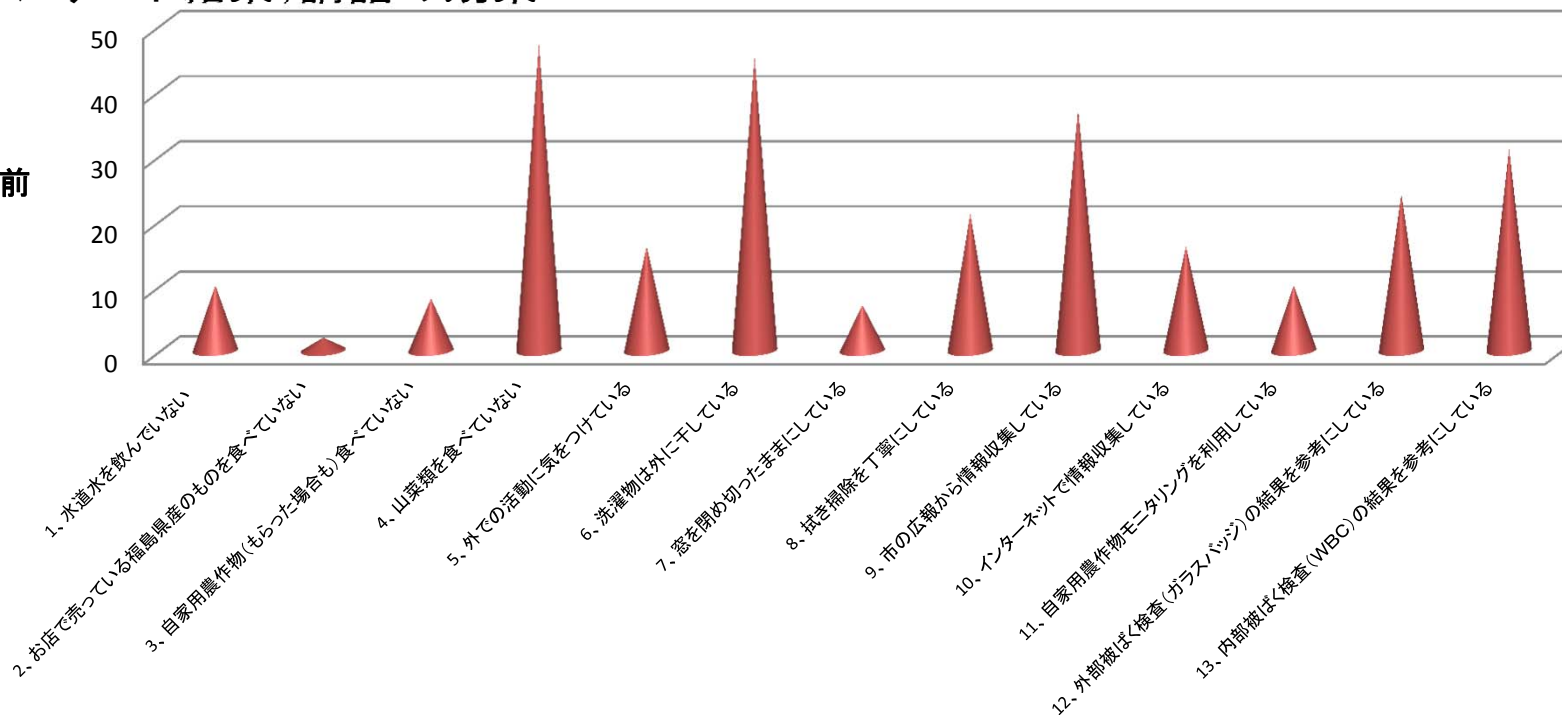
講師の話はわかりましたか



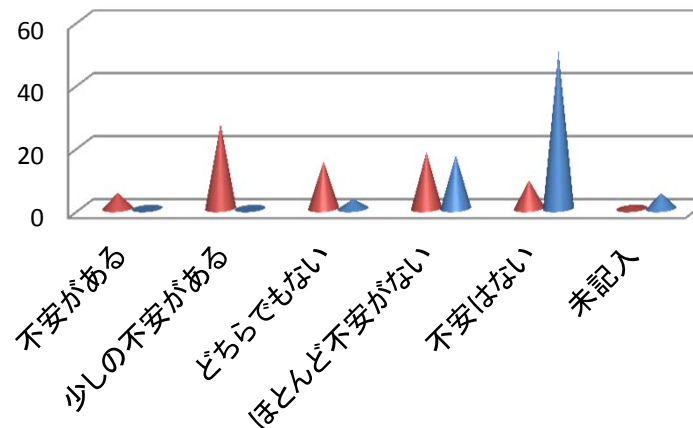
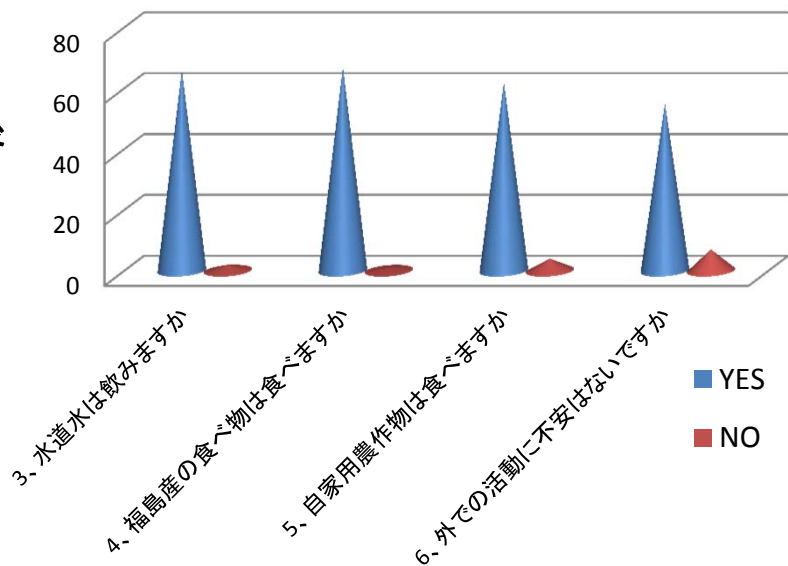
講師の話は正しいと思いましたか

アンケート結果;講話の効果

講演前



講演後

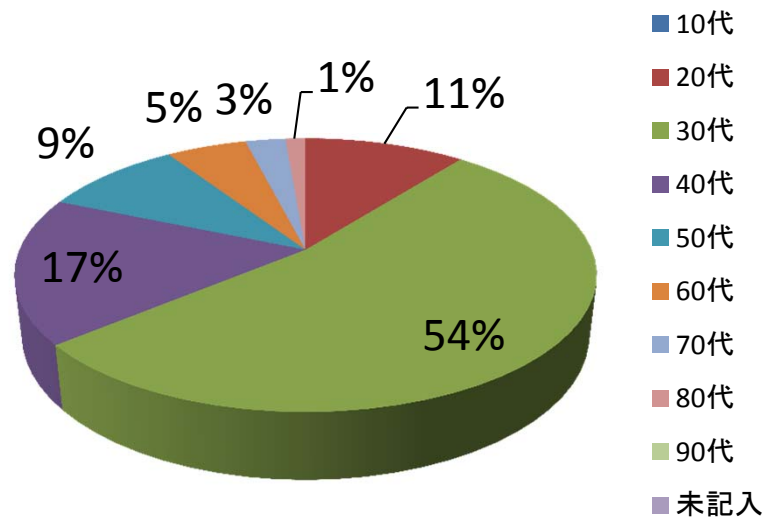


今のお住まいに住むことに不安はありますか

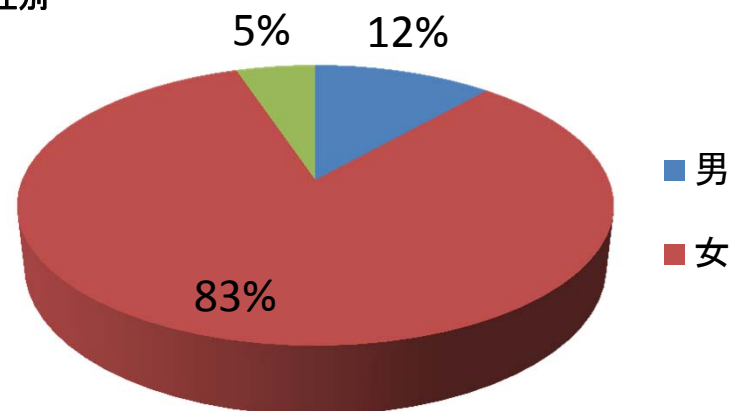
■ 講演前
■ 講演後

参加者

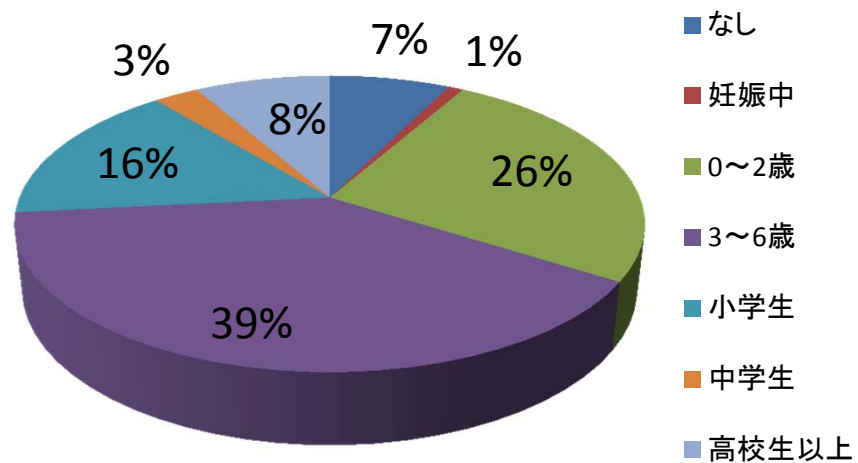
年齢



性別



お子様年齢



➤ 講演参加者からのご意見

- 定期的に講演を聞きたいなと思いました。とてもおもしろく、損失余命はわかりやすかったです。
- より多くの人達に話してほしいです。すごく楽しかったです。
- 楽しく分かりやすかったです。生きて生活していくには様々なリスクがある事がわかりました。少し冷静な目をもって生活していこうと思います。
- 今年は(山菜等を)少量ずつでも食べてみたいと思う。
- 福島人として自信をもって生活も出来そうになりました。
- 早口で良く分からなかったが、喜多方での生活は安心だと思った。
- これから妊娠・出産をする事があったときに不安に思う事がある。

➤ 考察

- 伊達市、福島市、喜多方市、いわき市の5カ所の幼稚園と保育園にて、132名を対象に放射線学習講演を開催し、リスクに関するコミュニケーションを促す内容は参加者から概ね受け入れられた
- 講演に反発を感じる方とも講演をきっかけにコミュニケーションを持てることが考えられる
- リスクを受け入れようとしているときには、損失余命が自身のリスクの相場観作りに有益なことが示唆された
- 今後もこのような活動が求められるが、スポンサーの問題の解決が求められそう